



地域医療を支えるのは誰だ？

「地域医療の崩壊」という言葉を耳にしたことはありますか？ 北通りの地域における医療は現在どうなっていると思いますか？ ご存知の方も、そうでない方も北通りの現状と未来について一緒に考える機会にしてほしいと思います。

地域医療が崩壊した例は沢山あり、青森県の各地域も医療体制は厳しい状態にあります。なぜ医療の崩壊が起こったのでしょうか。

医療は年々高度化し、専門に特化した医師が必要となりました。その反面専門以外では診療できない医師も増えました。そこで国は臨床研修システムを変更することにしました。医師免許取得後すぐに専門科に所属（いわゆる医局）していたものを、初めの2年間は各科を回って勉強するものへ変更したのです。また、研修病院を全国から選べるようになりました。その結果、青森県の場合は弘前大学で研修する医師が減り、地域に派遣されていた医師が引き上げるといった事態になりました。

- ①医療の高度化に伴う専門医の増加
- ②専門しか診ることが出来ない医師の増加
- ③臨床研修システムの変更
- ④医師の偏在化（都市部に多く地域に少ない）
- ⑤医師の疲弊
- ⑥医療崩壊

上記のことが各地域で起こっています。もちろん北通りもです。さらに医療従事者の（医師だけでなく看護師や事務職員なども）高齢化も進んでいます。定年退職する人がいるにもかかわらず若手が入らず、一人ひとりの負担が増え疲弊につながりつつ

あります。現状を変えるためには国を変えなくてはいいませんが、すぐには無理でしょう。大間病院のスタッフが増えるといいのですがなかなか難しいようです（いつでも職員の募集をしていますのでご興味ある方は大間病院まで）。ではどうすればいいのでしょうか。

地域医療の崩壊が目の前にあったある地域では、⑤をなくすことで崩壊を免れました。どのように⑤をなくしたのか。国や行政が何かしたわけではありません。地域に住む住民の方が立ち上がったのです。例えば、夜間休日のコンビニ受診をやめたり、減塩・禁煙など健康的な生活をするすることで病気にならなくなったりと様々な取り組みを地域住民の方々が率先して活動していただいた結果崩壊せずに済んだのです。

大間病院は北通りの地域医療を担っており支えているともいえますが、本当に地域医療を支えているのはこれを読んでいる住民のみなさんなのです。大間病院でも全力で地域医療を守っていきたいと思いますので、ぜひ住民のみなさんもお協力をお願いします。

